

水稻「ひとめぼれ」の奨励品種採用

1. 試験のねらい

本県水稻奨励品種の「サチズミ」は、昭和62年度に耐冷性の強い極早生種として県北部中山間地帯を対象に奨励品種に採用されたが、良食味指向の中で作付が伸びていない。また、県北部での主力品種の「初星」は、穂ばらみ期の低温による不稔や、乳白米が発生しやすく、収量・品質面でやや不安定である。そこで、県中・北部における水稻の生産安定を図るため、本品種を水稻奨励品種決定調査で検討した。

2. 試験の経過

本品種は宮城県古川農業試験場（農林水産省指定試験地）において、食味が極良好で耐冷性の強い中生品種の育成を目標として、昭和57年に「コシヒカリ」を母とし、「初星」を父として人工交配を行った組み合わせから育成されたものである。63年にF₈で「東北143号」の系統名を付し、平成3年に水稻農林313号として農林登録され、「ひとめぼれ」と命名された。

本県においては、昭和63年から配布を受け、奨励品種決定基本調査、現地調査等で各種特性、地域適応性を検討した結果、成績が良好であったので、平成3年度に「サチズミ」に換えて奨励品種に採用された。

3. 特性の概要

- (1) 出穂期・成熟期とも初星より1～3日遅い早生種である。早植ではコシヒカリより出穂期・成熟期とも7日程度早いが、晩植では2日程度遅れる。
- (2) 稈長は初星より5cm程度長く、穂長・穂数は同程度で、草型は偏穂数型に属する。
- (3) 最高分けつ期の草丈は初星と同程度で、葉色はやや濃い。
- (4) 稈の太さは初星よりやや細く、剛柔もやや柔らかい。耐倒伏性は劣り、やや弱に分類される。
- (5) 穂ばらみ期の耐冷性は初星より強く、コシヒカリ並の強である。
- (6) いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-iをもつと推定され、圃場抵抗性は初星並の中である。
- (7) 穂発芽性はやや難に分類され、初星より穂発芽しにくい。
- (8) 収量は年次変動少なく、初星並～やや多収である。
- (9) 玄米の粒形は中長、粒大は中大で初星に近く、玄米千粒重は初星よりやや軽い。
- (10) 外観の品質は初星よりやや良い。
- (11) 食味官能評価は初星よりも明らかに良く、コシヒカリに近く上上である。

4. 普及地帯および栽培上の留意点

- (1) 県中・北部の早植栽培に適する。普通植栽培以降では熟期が遅れるため、麦跡での栽培には適さない。普及見込み面積は8,000ha。
- (2) 耐倒伏性はやや弱であるので、基肥窒素は初星よりも少なめとし、穂肥を重点に施用する。

5. 成果の要約

県中・北部における水稻の生産安定を図るため、穂ばらみ期の耐冷性が強く、食味が極めて良い「ひとめぼれ」を奨励品種に採用した。

(担当者 育種部 小島 隆)

表-1 農業試験場における成績

品 種 名	出穂期 月. 日	成熟期 月. 日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²	倒伏 程度	玄米重 kg/a	同左 比 %	玄米千 粒重 g	外観 品質
ひとめぼれ	7.31	9.11	86	19.6	443	2.2	54.4	110	21.2	4.8
初 星	7.30	9.10	81	19.1	435	1.1	49.4	100	21.6	7.0
コシヒカリ	8. 7	9.19	96	19.1	401	4.0	54.8	111	20.5	4.6

注 1) 昭和63~平成3年の4か年平均。5月8~9日移植。

2) 倒伏程度は、0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚。

3) 外観品質は、1(上上)~9(下下)。

表-2 特性検定

品 種 名	葉いもち	穂いもち	耐倒伏性	穂発芽性	耐冷性	食味
ひとめぼれ	中	中	やや弱	やや難	強	上上
初 星	やや強	中	中	やや易	中	上
コシヒカリ	弱	弱	弱	難	強	上上

注 1) いもち病は、烏山いもち病検定試験圃場成績で菌系は037。

2) 耐冷性は、平成3年黒磯分場冷水かけ流し耐冷性検定圃場成績。

表-3 初星に対する収量比較

現地名	移植期	収量比
那 須 町	5. 9	101
黒磯分場	5.10	103
今 市 市	5. 3	107
大田原市	5.11	97
矢 板 市	5. 7	98
高根沢町	5.14	100
烏 山 町	5.11	95
宇都宮(農試)	5. 8	110
芳 賀 町	5.19	100
真 岡 市	5.16	99
小 山 市	5. 8	97

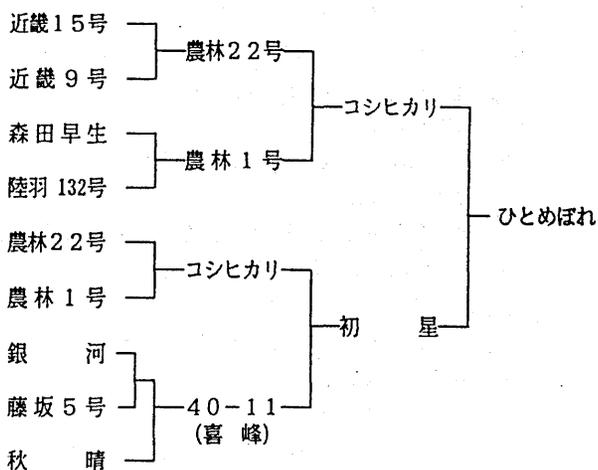


図-1 ひとめぼれの系譜図

注. 平成1~3年の3か年の平均。

黒磯分場、宇都宮(農試)は昭和63~平成3年の4か年平均。